

令和4年度 第2回学校評議員会 議事録

1 日 時 令和5年2月22日(水) 15:00～16:30

2 会 場 本校視聴覚室

3 出席者 学校評議員 4名(欠席1名)

学校職員 校長、副校長、事務長、総務主任、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、保健主事、
電子機械科主任、建設環境科主任、総務部担当

4 進行 総務部担当

5 記録 総務部担当

6 内容

(1) 校長挨拶

(2) 令和4年度学校経営計画について (校長)

(3) 令和4年度重点目標について (各主任より)

(4) 令和4年度高校の魅力化促進事業

久慈工業高校の魅力アッププロジェクトと学校評価結果について (副校長)

(5) 意見交換

進 行：学校評議員の皆様よりご意見などいただきたいと思います。

A 評議員：自己肯定感ですが、33%の生徒が自分に良いところがないと感じています。成功したり、褒められたりすることで上がっていくと思います。自分を肯定している生徒は、資格取得が多くなると思いますので、取得する資格の数や人数を増やしていくと良いと思います。

B 評議員：1名の長期欠席者は入学前、入学後、いつから長欠傾向になったのか、お聞きしたいです。

教務主任：入学前からであり、高校に入学して頑張ってはいますが波があります。

B 評議員：「わかりやすい授業である」と答えた生徒の割合が 96.9%の回答があったのは素晴らしいと思います。基礎学力がなかなか厳しいという先生方の説明もありましたので、高校入学前に基礎学力を少しでも高めて進学させたいと、改めて思いました。

A 評議員：ある程度規模が大きくなると防火管理者という資格を持った人を置かなければなりません。それを取得することで、就職先で防火管理者として勤務する可能性もあると思います。すぐに技術には繋がりませんが、そのような資格を取得するのもいいと思います。

校 長：防火管理者に限らず、専門の資格は一生懸命やっているとありますが、生徒の中には他の資格がほしいということもあるかもしれません。学科ではどうですか。

建設環境科主任：希望者がいれば、対応できると思います。

電子機械科主任：危険物の資格は持っていると評価していただける企業が多いので、取得に励む生徒はいます。本校以外の学校では消防設備士を取得する生徒もいます。

E 評議員：「学校が楽しい」と答えた生徒の割合が 95.3%というのはすごいです。保育所でもいじめとまではいきませんが、クラス全体で話し合ったりするなど、その都度対応をしています。

D 評議員：地域社会への参加では、地域に充分貢献していると思いますし、これを継続して実施いただきたいと思います。また、先生方が頑張っているのが分かりますので、生徒のやる気を促したり、しつけや教育面でご家庭への協力をお願いできればと思います。

A 評議員：PTA総会など保護者と先生方との意見交換の場は、ある程度あった方が良いと思います。学校側から家庭へのお願いをお話することで、保護者も気を付けてくれると思います。

総務主任：本校のPTA総会は、最初、各分掌からの報告がありますが、学級懇談をメインでやっています。学級懇談ではいろいろと家庭内の状況が分かってきますし、共通理解が図れる部分がありますので、今後も継続していきたいと思います。

E 評議員：防災訓練を年2回実施していますが、東日本大震災のことについては触れないのですか。

総務主任：復興教育という部分で、避難訓練が終わった後に教室に戻り、県の冊子(復興教育副読本「いきる かかわる そなえる」)に目を通しています。野田中学校の「逃げ地図」を本校の生徒に紹介していただいて、生徒からアンケートを取ったところ、いろいろな意見が出ました。今後、可能であればタイアップして、工業高校でものをつくって、それを防災に生かせるようなことができれば良いと考えていました。

校 長：先ほど大阪大学と連携して講座を行っているという話をしましたが、大阪大学のシンポジウムに招待され、野田中学校出身の3年生2名が震災時の体験を発表してきました。将来、地域貢献をしたいという決意も併せて話をしてきて、村長さんも感激していました。震災の記憶は当然あるようで、地域への思いを持って将来技術者として頑張りたいと述べていました。

B 評議員：子供たちが楽しいという学校をつくるには、職員が笑顔で、活力ある職場にしていかなければならないと思っています。先生方もいろいろ細かくご意見等があるので、話し合っただけで形にしていけたら、子供たちに還元できると思います。

進 行：最後に学校評議員の皆様から、ご提言をいただきたいと思います。

D 評議員：この間もイーゼルをいただき、野田村役場の入り口のロビーで早速使わせていただいています。いろいろ貢献していただいて非常に感謝しています。引き続き野田村と連携して、取り組んでいただければと思います。

B 評議員：今年度はプログラミングの出前授業や吹奏楽の合同演奏など中高連携ができました。また、中学生の「逃げ地図」を高校の課題研究発表会で発表させていただき、感謝しています。中学校にできることにもある程度限界がありますので、次年度も持続可能な部分で中高連携をしていただきたいと思います。中高連携で中学生は工業高校を身近に感じ、憧れて工業高校で頑張りたいと願書を出した生徒もいます。さらにその下の学年でも多くの生徒が工業高校に興味を持っています。ただ、学力不足というのは、中学校の責任でもあると思います。今後もお役に立てればと思います。

A 評議員：工業高校と中学校との交流活動がすごく大事だと思います。できれば田野畑など他の地域に行ってみるのも良いと思います。保護者の方のアンケートで工業高校に入って良かったというのはすごくいいことですし、保護者から工業の良さを周囲にPRしていただければ、中学生が工業高校を受験する気持ちになると思います。工業高校は男子のイメージがありますが、女子生徒が活躍できることをPRするのもいいと思います。

E 評議員：工業高校の魅力は十分に発信していると思っています。私だけでなく、他の皆さんにも同じように発信を受け取っていただけるように頑張してほしいと思います。資格取得は即戦力になりますし、強みにもなると思いますので、ぜひ資格を取る生徒を増やしてほしいと思います。